

小嶋 勇 会員

「どんなことがあっても、名誉と約束だけは重んじるのだよ」と、毎日のように言って聞かせた。(ナポレオン母)

「貧乏は恥ではない。貧乏に負けることが恥なのだ」と教えた。(西郷隆盛母)

仕事は、人の幸せを願いながら、心をこめて、おこなう。「今日、この仕事を通して人を幸せにできますように」「これを使うだれかが、いつも幸せでありますように」あなたが幸せを運ぶ素晴らしい役割を担っていることに気づきます。

僕は苦勞したと自分では認めない主義です。苦勞を苦勞と思った瞬間に、本当に苦勞になる。だからいまも社員たちに「風邪をひいたと認めた瞬間に風邪をひくんだぞ」と言っています。

悪口、陰口を言っていると、気分が晴れることがあります。第三者はそれを聞いて、喜ぶことがよくあります。でも、それは一時的なものです。悪口、陰口はマイナス言葉なのです。悪口は、言う人や聞いている人の心を貧しくします。言われた人の心を傷つけ、怒らせ、悲しませます。

子供が求めるままに何でも買い与えるのは、ほかの子供の親と比べて、自分には力があるんだという、親の自己満足に過ぎない。だから与える。長期的に育てるのではなく、短期的に親が自分の心を満たすためなのです。だから小善。結果、子供がベット化していく。まさに、小善は大悪ににたりです。

格言(ユースキン製薬)

子を育て 子供に教わり 親となる

花でさえ 自分に合った 季節に咲く

「嫌な人」きっと誰かの「好きな人」

いそがしいときが一番 面白い

苦言こそ 人を育てる 栄養剤

振り向くな 明日は前から やって来る

思っても 口に出さなきゃ 伝わらず

やさしさは 強さの土に 咲いた花

手を出さず 見守る勇氣 親の愛

変わるの は 相手じゃなくて 自分から

感謝の言葉は今すぐに 苦言は一日考えて

育てる間はわが息子 育て済んだらよその人

あえてよかった あなたに言いたい 言われたい

受けた恩は岩に刻み、与えた情は砂に流せ。見返りを求めているようでは一流にはなれない。

結婚した時点が、女の最高の瞬間であり、「男は女の最高を買う」ことになる。結婚とは「女が男の可能性を買い、男は女の匂を買う」行為である。男の年収のピークは五十歳前後であるために、女は男の将来性を「青田買い」をしていることになる。他方、男にとって女の魅力は、見かけ等が生け花と同じように時間とともに劣化するので、結婚した時点が女の最高の瞬間であり、「男は女の最高を買う」ことになる。

愛とは、コップに一杯の水が入っている状態と同じです。しかし、どんなに愛していても、水は、必ず少しずつ蒸発していく。だから、いくら愛していても必ず少しずつ醒めていく。コップにひびが入れば水は大量に減っていく。もしコップが割れたら愛は END となる。

